



舟溜り跡石積みの位置 (上が北)  
※水色はかつての貞山堀の範囲

舟溜り南岸の護岸石積み (1区)



新旧の護岸石積み (北から)



布積の古い石積み



落とし積の新しい石積み



石積み背面の裏込め石



石積みの南端

堀から出土した  
木製の部材



舟溜り北岸の護岸石積み (2区)



落とし積の護岸石積み北端 (北から)



落とし積の護岸石積み (東から)



石積みをおさえる横木と杭

### 貞山堀関連年表

- 1615~1624 (慶長後半~元和) 木曳堀 (名取川~阿武隈川) が開削される
- 1670 (寛文 10) 舟入堀 (塩釜湾~北蒲生) の開削に着工する  
→ 蒲生御蔵・舟曳堀 (鶴巻~苦竹) が整備される
- 1872 (明治 5) 新堀 (七北田川~名取川) が開削される
- 1878 (明治 11) 野蒜築港の工事が開始される → 北上運河・東名運河の開削
- 1887 (明治 20) 舟入堀と七北田川をつなぐ工事が行われる
- 1890 (明治 23) 舟入堀・新堀・木曳堀の拡幅や浚渫工事が完了する
- 1967 (昭和 42) 仙台港の建設工事に伴い、貞山堀の一部が失われる
- 昭和 50 年代 北蒲生の貞山堀が埋められる
- 2011 (平成 23) 東日本大震災による津波で宮城県内の運河が大きな被害を受ける

### まとめ

- 昭和 50 年代に埋められた、貞山堀舟溜り跡の護岸石積みを確認しました。
- 舟溜りの南岸に残る石積みは、積み方や石材加工の特徴から近世に造られた可能性もあり、近代以降にはその一部を土台として構造の異なる石積みで改修されています。
- 近世に造られた石積みの護岸施設はこれまで県内の沿岸部や河川では確認されておらず、今回確認した古い石積みは、近世に開削された舟入堀や舟溜り、さらに仙台への物資移送の拠点となった蒲生御蔵を考えるにあたり、貴重な発見といえます。
- 石積みは、沿岸部における護岸石積みの構築技術の変遷を見ることができる貴重な土木資料といえます。